



今治ジャズタウン

山本昌司

昭和54年卒



東京歯科大学を卒業後、地元今治で勤務医を経て、1982年に愛和歯科医院を開業。1987年に岡山大学医学部にて医学博士を取得。

2022年4月末をもって愛和歯科医院を閉院。現在に至る。



① スウィングキッス・ジャズ・オーケストラ (前列左から2番目が筆者)

四半世紀の間、今治市の夏をジャズの音色で彩ってきた「今治ジャズタウン」が、2023年今夏のステージを最後に幕を閉じた。1999年に、愛媛県主催で「しまなみ海道」架橋記念イベントの一つとして、国内外を代表するミュージシャンが集い、今治城がある吹揚神社の境内で産声を上げた今治ジャズタウン。これを1回で終わらせてしまうにはあまりにも忍びがない、愛媛を代表する港町・今治にジャズを根付かせ、素敵で心豊かな町にしようと、今治で活動するアマチュアの社会人ビッグバンド「スウィングキッス・ジャズ・オーケストラ」のバンドマスター・平尾史郎氏が先頭に立ち、メンバーが中心となる実行委員会を立ち上げ、今年度まで継続してきた。市や企業などの支援をはじめ、ボランティアの力も借りながら、企画からチケット販売、会場設営まで主体的に我々一般市民が運営してきた。ミュージシャンの方たち

からも、この規模のジャズイベントを一般市民が主催しているのは全国的にも珍しいと言われた。

今治ジャズタウンは、2000年からは実行委員会が主催で、毎年8月末の土曜・日曜の2日間構成でずっと続けてきた。土曜日は「タウンステージ」と呼び、市内のレストランやバー、企業の社員食堂やデパートの屋上、さらにはお寺や教会、フェリーの船上や夕日が映える砂浜を会場としたところにミュージシャンが出向いて行って、比較的近い距離で臨場感溢れる演奏を来場者に肌で感じてもらった。多い時には14カ所で開催され、今治の町中がジャズ一色に染まった時もあったが、実行委員会メンバーも年を重ね体力的な問題と、後継者不足により次第に会場を減らして、今夏は4カ所の開催となった。

日曜日は「メインステージ」と呼び、800人収容できる大きな会場でプロミュージシャン4バンド



2



3



②メインステージ会場の壁面ポスター
③④⑤⑥タウンステージ



6



荒川康夫), 伊東ゆかり, 雪村いづみ, 永六輔, 尾藤イサオ, 団しん也, 豊田チカ, 真梨邑ケイ, サークス, タイムファイブなど豪華な顔ぶれであった。

ジャズとの出会い

私は36歳の時、テニスの試合中にアキレス腱断裂を経験し、もともと好きだったスポーツから足が遠のいていて、何か他の趣味を模索していた時にふっと思い浮かんだのが、同級生で親友の呂正博君のことだった。彼が大学時代ジャズ研に所属し、サクスを艶っぽく吹いていたことを思い出し、楽器もいいなあと思ったのが始まりだった。現在使用しているアメセルのテナーサクスは、彼と一緒に石森管楽器で選別して買い求めたものだ。

40歳を過ぎて初めて楽器というものに触れ、1年間ほどサクス教室に習いに行き、いきなりスイ

の迫力ある演奏を披露した。我々スウィングキッスのメンバーは、例年会場の設営や運営、ミュージシャンのアテンドをするため、当日は裏方として忙しく動き回っている。舞台上で演奏することは一度もなかったが、今回最後のジャズタウンということで、来場された方々に25年間の感謝の意を表したいという気持ちから、初めてメインステージの舞台上でオープニング演奏を行った。心地よい緊張感の中、楽しく演奏でき、温か

い拍手を沢山いただき、これまでの活動が市民に受け入れられたことを実感した。今回の出演者は、猪俣猛ジャズテット、向井滋春クインテット、栗田敬子カルテット+ゲストボーカル豊田チカ、杉本篤彦バンド、そして特別ゲストとして阿川泰子さんを迎え、終演に花を添えていただいた。これまでに出演していただいた特別ゲストには、小林桂、尾崎紀世彦、WE3（猪俣猛・前田憲男・



7



8



9



10



11

7 今治アーケード商店街にて 8 コンボ演奏 9 定期演奏会 10 念願の呂 正博君とのセッション(一番左が呂 正博君, 中央が筆者)
11 前列左から筆者, 平尾史郎氏, 猪俣 猛氏

ングキッスに入ったのはいいものの、譜面もろくに読めない私にはかなり厳しいものがあった。恐らく多少経験があれば入会しなかったが、何も知らない怖いもの知らずの私だったから入会できたと思う。当時元プロの方も何人か所属しており、かなり厳しい言葉も受けたが、今思えば至極当然のことだったし、励みにもなったと思う。バンドのメンバーに迷惑を掛けたくない一心で、少しでも時間があれば昼休みに、技工室やレントゲン室で毎日練習をしていたのを懐かしく思う。そして、私が今日まで続けてこられたのは、スウィングキッスのバンドマスターを30年、今治ジャズタウン実行委員長を25年務めた平尾史郎氏の存在が大きい。彼は日本ジャズ界の重鎮ドラマー猪俣 猛氏の愛弟子で、

そのドラミングはさることながら、私の高校時代の2年後輩であるが、包容力があり一緒にいるととても居心地のいい友人であった。

突然の別れ

今治ジャズタウンの運営は、人手不足に加え実行委員会メンバーの高齢化で体力的にも厳しい状況で、コロナ禍の影響もあり2022年の開催を最後にする予定だった。しかし、2023年には25周年で節目を迎えることに加え、楽しみにしてくれている市民にも最後であること、そして25年間の感謝の気持ちを伝えて幕を下ろしたいという思いから、昨年のジャズタウンの後実行委員会で話し合い、今年を最後に決め準備を進めていた矢先、我々バンドメンバーに突然の別れが訪れた。長年実行委員長を

務めてきた平尾史郎氏が、今年の3月に急逝したのだ。1カ月後に迫ったスウィングキッス・ジャズ・オーケストラの定期演奏会に向け、亡くなる3日前にも練習で彼のドラムを聴き、次の日には昼食を共にした。その彼が、忽然と我々の前から姿を消してしまったのだ。彼の娘さんの願いもあり、葬儀の時バンドメンバー全員と飛び入りのジャズ仲間と共に涙しながらの演奏で彼の旅立ちを見送った。史郎さんが逝去して半年以上経ったが、未だに彼の死を受け止めることができないでいる。

今治ジャズタウンのこれから

バンドのメンバーから推されて、スウィングキッス・ジャズ・オーケストラのバンドマスター、今治ジャズタウン実行委員長を



12 フィナーレ出演者全員で「Sing Sing Sing」

平尾史郎氏の後継として引き継ぐことになった。まだまだ音楽的には未熟なので、「私なんかでいいのか」という思いもあったが、これまで彼が我々バンドメンバーに尽くしてくれたことへの恩返しとして、少しでも力になればと思い、引き受けることにした。

彼から、「ジャズってこんなに楽しいんだよ」「心豊かにしてくれるんだよ」ということを学んだ。だから、その気持ちは自分だけでなく、まわりの人、今治市民や、もっともっと多くの人たちに伝えていき、みんな幸せになればいいのかなと思う。

これからも、スウィングキッス・ジャズ・オーケストラのメンバーや今治ジャズタウン実行委員会のメンバーと共に、今治がジャズの似合う素敵でお洒落な街になるように、ジャズっておもしろい、決して難しいものじゃない、楽しいもの。それが一般の人にも理解され、受け入れられるように、今回「今治ジャズタウン」は最後となったが、また新しい形で今治ジャズタウンを立ち上げたい。

最後に

昨年、開業して40年間従事した愛和歯科医院を閉院した。難聴もあるが、視力の低下が大きな理由である。自分の思う診療を100%全うすることが困難になり、ストレスを感じるようになり、この際自分が満足できない仕事をするくらいならキッパリ引退して、第二の人生を歩もう、70歳から80歳まで元気に自分の足で歩いて、美味しく食を楽しむ事ができる10年間を謳歌しようと決心した。ただ閉院するにあたり、当時抱えていた患者さんには大変申し訳なく感じたが、半年以上かけて一応切りのいいところまで治療を完了させた

13 打ち上げ 乾杯の後、セッションしたり、談笑したり、一番楽しい時間



り、他の信頼できる歯科医院を紹介したりして患者整理を行った。開業する以上に閉院の手続きや段取りは大変であった。

あの時あの人に会ったから、あの出来事があったから、今の自分の人生があるんだなど、すべてが一本の糸で繋がっているように、70年間人生を歩んできた私なりに思う。小学生の時、歯科医であった私の伯父（ラジコン飛行機の共通した趣味）に憧れて歯科医を目指した。テニスでアキレス腱を断裂した時、同級生の呂 正博君とバンドマスターの平尾史郎さんが居たからジャズ音楽に興味を持ち現在に至っている。そして昨年仕事をリタイヤしていたからこそ、バンドマスターと今治ジャズタウン実行委員長を引き継ぐことができた。もし現役で診療していたら、時間的にもそんな余裕はなく引き受けなかったと思う。

これからの人生、仲間とジャズ演奏を楽しみながら、地元今治がもっと素敵で素敵な街になるように、無理なく自然体で活動していこうと思う。